

みんなで創る 「福津市教育大綱」

きょうそう きょういく きょうせい
— 共創・共育・郷生 —



目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第1章 大綱の位置づけ・・・・・・・・	2
第2章 福津市教育大綱・・・・・・・・	3
資 料 市民との対話（ワークショップ）・・・	9
結びに・・・・・・・・・・・・・・・・	12

令和8年3月
福津市

はじめに

「一人の子を粗末にする時、教育はその光を失う」

大正から昭和初期にかけて、現在の福津市で、子ども一人ひとりを尊重する教育を実践された安部清美先生はこう説きました。

私たちは、この言葉を現代に問い直します。「学び」とは何でしょうか。そして、福津で育つ子どもたちは、未来の社会をどのように語るのでしょうか。

現在、市内では就学前から高等学校までの教育機関に加え、地域全体をキャンパスとする「郷育カレッジ」など、多様な学びの場が広がっています。この教育大綱は、これまでの福津が築いてきた教育文化を次世代へとつなぎ、さらに発展させていくための指針です。

時代の変化が加速する今、教育を学校だけに任せる時代は終わりを迎えようとしています。これからの学びは、学校、家庭、そして地域が手を取り合い、社会全体で支えていくものです。

学びを通じて子どもも大人も共に育ち、地域全体の力が向上していく。そんな「学びの循環」が生まれることで、福津はより住みやすく、輝く魅力にあふれたまちになると信じています。

第 1 章 大綱の位置づけ

1 大綱とは

教育大綱とは、国の「教育振興基本計画」を参考にし、市長が教育委員会と協力して、これからの福津市が目指す教育の姿をまとめたものです。

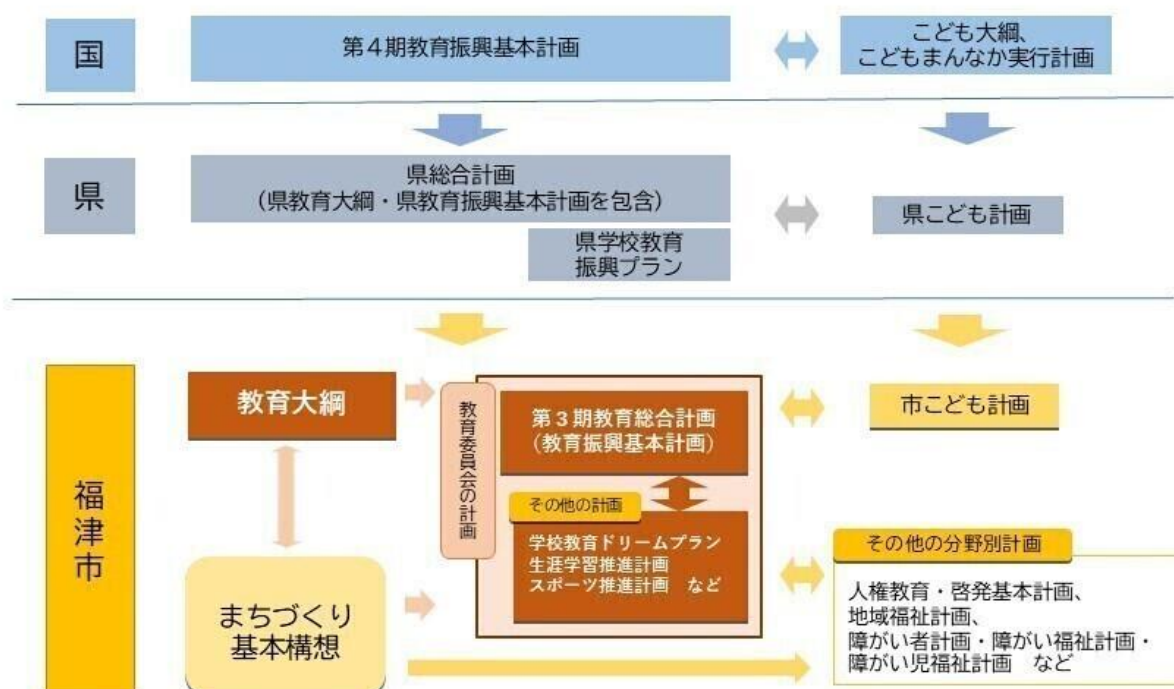
福津市の教育は、神興教育を築いた安部清美先生の「愛の教育」「土の教育」の理念を基盤とし、これまでの教育大綱においても、「福津を愛し、人との関りを大切にして、未来に向けて学び続ける人づくり、まちづくり」を基本理念として、行政や学校だけではなく地域住民も力を合わせた全市民の「共働」により取り組みを推進してきました。

新しい教育大綱は、市民との対話を取り入れて策定を進め、これからの福津市が目指す教育の姿をまとめました。

※「共働」と「協働」は共に、物事を一緒に行うことを意味しますが、「共働」は同じ方向を向いて一緒に担うことに、「協働」は立場の異なる主体が、役割分担して連携することに主眼を置いた言葉であり、ここでは「共働」を用いています。

2 大綱の位置づけ

教育大綱は、国や県、市では下記のように位置づけられています。



3 対象期間

「福津市教育大綱」の対象期間は、令和8年度から令和11年度までの4年間とします。

第2章 福津市教育大綱

1 基本理念と基本目標

- ◆ 東日本大震災や新型コロナウイルス感染症の流行など、想定外の事態を経験し、予測困難な時代を迎えています。こうした社会では、「決められた一つの正解」にとらわれず、試行錯誤を重ねながら、課題の解決にむけて効果的な手立てを「学び」を通して見出すことが重要です。
- ◆ また、人口減少、少子高齢化が進み、経済成長が期待できない中で、夢を持ち続け、人生を切り拓くために、自分のよさや可能性を前向きにとらえ、他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と「共働」して社会を創っていく必要があります。
- ◆ 福津市には、自然、歴史、文化、産業、人の知恵といった多様な「宝」があり、それらがさらに「学び」と結びつくことで、子どもたちを含む市民の地域愛や自己肯定感の醸成が期待されます。さらには、福津市で育った子どもたちが、将来の福津市の創り手として活躍するといったまちづくりの循環にもつながると考えられます。
- ◆ 「教育大綱」では、基本理念を「誰もが『未来の創り手』として育つまち」と定めます。「未来の福津の創り手」を育むため、地域を知り、地域を好きになり、地域をよくするために自分でできることを見出し、実行する意志をもった子どもを育むとともに、地域の大人が「総がかり」で「学び」に関わり、「共創・共育・郷生」の文化を形成していきます。

基本理念

誰もが『未来の創り手』として育つまち

基本目標

きょうそう
『共創』（共に創る）

きょういく
『共育』（共に育ち、育てる）

きょうせい さと
『郷生』（郷に生きる）

- ◆ 「誰もが『未来の創り手』として育つまち」を目指し、未来を共に創る「共創」、ワークショップで重視された「共育」に、福津らしさを表す「郷生」を加えた「3つの基本目標」を設定し、イメージスケッチを描きます。
- ◆ 「コミュニティ・スクール」が「共創」、「共育」、「郷生」のすべてに密接に結びつくなど、3つは重なりを持つ視点であり、個別施策を「創」「育」「郷」にこだわって推進していくために、この3つを基本目標として掲げています。

<目標1> ^{きょうそう}『共創』（共に創る）

「共に創る学び」のイメージスケッチ

- ◆ 「学び」は、一人ひとりが生きる力を獲得し、社会を発展させる有難い営みです。
- ◆ しかし、他人を傷つけたり、ルール違反をしたりなど、悪いことにも使えてしまうもの。だからこそ、学びを「正しく使う力」、そして「どう使うべきかを問い続ける姿勢」を大切にする必要があります。
- ◆ 世代や立場の異なる人が対話を通じて互いに学び合い、創造性を発揮して待ち受ける未来の難題に立ち向かっていきます。

「共に創る学び」とは

- ◆ 「共創」とは、立場や分野の異なる人たちが、対話や「共働」を通して、これまでになかった新しい価値や解決策を一緒に創り出すことです。
- ◆ 「一方向ではなく双方向」。「上から与えるのではなく、互いの意見を出し合う」。異なる立場・専門性・世代などが関わる「多様性」が前提で、その関わりの中で、新しい「価値」が創出されます。既存の役割をただ分担するだけでなく、共に創る。そのためには、地域も学校も、一緒に未来を思い描くことが大切です。
- ◆ 福津市では、子どもたちが自ら「問い」を立て、地域の人々と共に「納得解」を導き出す「探究的な学び」を進めます。地域の大人と対話し、働くことや生き方を考える経験を通じて、福津への愛着を深め、自らが「まちの創り手」であるという意識を醸成していきます。

＜目標2＞『^{きょういく}共育』（共に育ち、育てる）

「共に育ち、育てる学び」のイメージスケッチ

- ◆ 小中学校の総授業時間は 8,830 時間、高校まで含めると 11,000 時間を超えます。国数英など主要教科に体育、芸術、課外活動。子どもも教師も忙しい毎日です。
- ◆ 大人も子どもも日々の生活にゆとりを持ちにくい時代。だからこそ、家庭、学校、地域がゆるやかにつながり、互いに支え合う関係が大切。過度な干渉をせず、温かく見守り、寄り添うような心地よい距離感を保ち続けるのが理想です。
- ◆ 子どもたちと保護者、ふるさとの大人が互いに学び合い、人もまちも共に育ち、「共働」で「行きたい学校」、「帰りたい家庭」、「住みつづけたい地域」を築いていきます。

「共に育ち、育てる学び」とは

- ◆ 家庭は、子どもの豊かな情操や基本的な生活習慣、自制心を養い、自立心を育む重要な役割を担っています。核家族化や地域のつながりの希薄化により、身近な人から子育てについて学ぶ機会が少なくなっており、家庭の教育力の向上を図るため、多様な学びや多くの人との交流の機会が求められています。
- ◆ 地域は、学校（園）や家庭で体験できない活動の機会を通して、豊かな人間性や地域への愛着、市民性を育む場所です。現在も、居場所づくりや異年齢交流活動など、様々な活動が行われていますが、「社会総がかり」（地域ぐるみ）で子どもを育てる機運を一層高めていくことが求められます。
- ◆ 子どもたちの豊かな人間性や生きる力を育むため、学校（園）・家庭・地域のそれぞれが、その役割と責任を分かち合いながら、連携・共働し、共に育ち、育てる「共育」を推進します。

<目標3> 『郷生』(郷に生きる)

「郷に生きる学び」のイメージスケッチ

- ◆ 令和の時代、子どもたちは1人1台の端末を手にし、インターネットを通じて瞬時に世界とつながり、膨大な情報から学んでいます。
- ◆ 一方、足元には福津の風土が育む豊かな命が息づいています。この「生きた自然や歴史、文化」との触れ合いは、私たちの健康や生き方に大切な関わりをもたらしてくれます。
- ◆ 市民一人ひとりが、ふるさとの自然や歴史、文化などに学び、先人の知恵を現代の暮らしに生かすことで、誰もが共に、自分らしく幸せに生きる「ウェルビーイング」を実現していきます。

「郷に生きる学び」とは

- ◆ 福津には、自然、歴史、文化、産業、そして、専門的見地から教育を支え、子どもたちを温かく見守る地域の方々など、多様で魅力ある「『郷』(ふるさと)のよさ」があります。「『郷』(ふるさと)のよさ」を学びに生かし、学びを「郷」(ふるさと)の暮らしに生かし、「郷」(ふるさと)そのものも生きる「学びの循環」を大切にしていきます。
- ◆ 学校(園)・家庭・地域が連携・共働して、「地域と共にある学校(園)づくり」を実現するとともに、学校教育と社会教育が連動して、主体的に市民が「郷」(ふるさと)に関わることで「学校を核とした地域づくり」を進め、「郷生」の力を地域の活性化につなげていきます。
- ◆ 一人ひとりが「郷」(ふるさと)のよさを生かして学び、磨き、深めた技術や知恵を暮らしに生かし、心身共に豊かな「ウェルビーイング」を実感できるまちづくりを進めます。

ウェルビーイング：経済面など一面の幸福ではなく、健康状態など身体的側面や生きがいなどの精神面、人間関係など社会的側面も含めた幸福のこと。

2 大切にしたいこと

「共創・共育・郷生」の文化を育むため、多面的な「つながり」を大切にしていきます。

「共創・共育・郷生」に欠かせない4つの『つながり』

◆「自分とのつながり」

学びを深め、豊かなものにする鍵は、「自分ごと」（当事者意識）として真剣に関わること。そのために、「こんなことを実現したい」や、「これをできるようになるためにやってみたい」といった、自分ならではの夢や志を持ち、解決に向けての道筋を立てる「自分とのつながり」を大切にしていきます。

◆「人とのつながり」

知らないことを教えてくれる先生や自分にはない魅力を持った知人との関わりが、自分の考えを広げ、深め、技を磨き、高めてくれます。そのために、学校（園）・家庭・地域の学びでの、交流と対話、意見表明、熟議、共働、発表の機会やプロセスを大切にしていきます。

◆「情報とのつながり」

人工知能（AI）やビッグデータなど、情報技術革新の動きが急速に進んでいます。こうした中、デジタル情報だけでなく、紙媒体や対面コミュニケーションも含め、有益な情報を効果的・効率的に収集、整理、分析、発信し、情報と適切につながり、関われる学びを大切にしていきます。

◆「地域とのつながり」

グローバルな社会では、市内、県内で社会人となる子も、市外、県外に転出する子もいますが、子ども時代の学びを通じた地域の自然や歴史、文化などとのつながりが、その後の人生にかけがえのない財産をもたらし、めぐりめぐって地域の発展にも結び付きます。グローバルな社会だからこそ地域とつながる学びを大切にしていきます。

3 4つの重点施策

基本理念と基本目標を目指し、以下の4つの重点施策を推進します。

＜施策1＞ ふるさとを愛し、大切に学ぶの推進

福津がもつ豊かな自然や歴史、文化、そしてそこで働く人々の情熱などに直接触れる体験を通じて、知識としての学習を超えた「郷土への深い愛着」を育み、自分たちの足元にある価値を知り、このまちで学ぶことの意味を自分ごととしてとらえ、将来、どこにいても、福津の未来、そして社会の未来を共に創り出せる力を養っていきます。

＜施策2＞ 探究し、未来を切り拓く学びの推進

時代の変革の中で、未来を担う子どもたちが自らの人生を主体的に「舵取り」できるよう、学校（園）、家庭、地域が「共働」して、生きて働く確かな「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力」、学んだことを社会や人生に生かそうとする「学びに向かう力、人間性」の育成を進めます。

＜施策3＞ 誰一人取り残さない学びの環境づくり

子どもたちが「自分らしく幸せに」生きるために、福津のあらゆる資源を学びや体験の場として活用しながら、「長所・強み」に着目した一人ひとりに最適な学びにより可能性を引き出し、誰一人取り残されず、相互に多様性を認め、高め合い、他者を思いやる教育・支援を推進します。

＜施策4＞ 大人も子どもも共に学ぶまちづくり

大人も子どもも積極的に学び、人のつながりや学びのノウハウが活力ある地域づくりに生かされるよう、市民自身が講座の企画運営を行う「郷育カレッジ」、地域の課題解決や個性的で魅力ある校区にする「郷づくり活動」（地域自治活動）、「コミュニティ・スクール」など、地域での学びの活動の継承・発展を図ります。

資料

市民との対話(ワークショップ)

- ◆ 「教育大綱」を市民との対話を取り入れて策定・推進していくため、ワークショップを開催しました。
- ◆ ワークショップでは、4～5人のグループごとに、子どもも大人も一つのテーブルを囲み、福津の学びについて対話を進めました。



「福津市の新しい教育プラン策定のためのワークショップ」の開催経過

	日時	参加者数	内容
第1回	令和7年 12月20日(土) 市役所大ホール	45名 (中学生6名、 高校生2名、 教職員18名、 地域住民19名)	◇講話(福岡教育大学教授 伊藤克治 先生) 『福津市の教育の成果と今後に期待すること』 ◇グループワーク 『『未来の福津の創り手』ってどんな人?』 『『未来の福津を創る子どもを育てよう』に対する『問い』を考えよう』
第2回	令和8年 1月31日(土) ふくとびあ 健康プラザ	39名 (中学生5名、 高校生1名、 教職員8名、 地域住民25名)	◇グループワーク 「気になる『問い』とその理由」 『『問い』を解決するために～子ども・教師・家庭・地域 みんなで知恵を出し合おう～』



- ◆ 代表的な意見の例をキーフレーズでまとめると、以下のとおりです。

(キーフレーズ1)「愛 着」

- ◆ ワークショップでは、福津が誇る豊かな自然や歴史を、教科書の中だけでなく、五感を使って「本物」から学びたいという声が数多く出されました。
- ◆ 参加者のみなさんが大切にされていたのは、地域の魅力（光）だけでなく、今直面している課題（影）も隠さず共有し、子どもと大人が一緒になって解決策を考えていく姿勢です。福津という地を深く知り、自分たちのルーツを再発見する経験を通じて、「自分たちが社会を創っていくんだ」という姿勢を育んでいけることが強調されていました。

<意見の例>

地元の食材や
農業から命の
循環を学ぶ

地域の歴史や
世界遺産から
深く学ぶ

福津の良い所
も悪い所も共
に知る

地域の課題を
自分ごととして
解決する

外から見た福
津の価値を再
発見する

(キーフレーズ2)「探 究」

- ◆ 「『答えのない問い』があふれる社会で、大人と一緒にワクワク挑戦したい」。そんな「子どもたちの主体性」を全力で応援するまちでありたいという意見がワークショップを通じてまとまりました。
- ◆ 「自分たちが関わればまちが変わる」という実感こそが、未来を拓く確かな力となる。失敗を恐れずに挑戦し、企業の知恵や専門家のスキルを借りながら、「本物の社会」と触れ合う。そんな「探究のプロセス」を、福津の教育に求める意見が出されました。

<意見の例>

若者が主体的
に企画し社会
に参画する

身近なルール
を対話で自ら
更新する

企業の知恵を
借りた探究学
習を行う

自分の関わり
でまちが変わる
実感を育む

地域の大人と
一緒にまちの
未来を創る

※「探究」と「探求」は共に物事の本質や根本的な原因を深く掘り下げることで、意味は重なりますが、「探究」は学習や研究の方法・アプローチに、「探求」は探し求める動機や姿勢に主眼を置いた言葉であり、ここでは「探究」を用いています。

(キープレーズ3)「環境」

- ◆ ワークショップでは、「幸せの基準は一人ひとり違う」という意見が、多く出されました。
- ◆ 「学校」という枠組みだけにとらわれず、子どもも保護者も「ここなら自分らしくいられる」と思えるような居場所を、あちこちに広げていきたいという願いが出されました。誰一人取り残されないよう、一人ひとりの状況に寄り添った「柔軟な学びのカタチ」を、福津のまち全体で支えていくことが重視されていました。

<意見の例>

幸せの基準を
認め合える環
境を創る

家庭環境に左
右されない場
所を設ける

自分たちの居
場所を自分た
ちで創る

不登校の子や
保護者が安心
できる場を作る

誰一人取り残
されない学びの
場を創る

(キープレーズ4)「^{きょう}共^{いく}育」

- ◆ 「教育は子どもたちだけのものじゃない」。全世代が参加したワークショップで、最も強調された想いの一つです。
- ◆ 大人が心に余裕を持ち、自ら学びを楽しみ、いきいきと活動する姿を見せる。その背中こそが、子どもたちへの最高の教育です。お互いの個性を認め合い、学校と地域の壁をなくして交流し、対話を重ね、感謝を伝え合うことで、幸せを感じられる「共育」のコミュニティを望む声が出されました。

<意見の例>

大人も子どもも
生涯共に学び
合う

先生だけで背
負わず地域で
支え合う

多様な背景を
持つ人々が共
に集う

地域の組織力
を高め、学びを
継続する

対話を重ねて
エネルギーを一
つにする

結びに

福津というまちは、子どもも大人も、すべての世代が「共に学び、共に未来を創る」場所でありたいと考えています。

人は、人とのつながりの中で育ちます。家庭があり、学校があり、地域があり、それらを支える行政がある。多種多様な視点が交わり、互いを尊重し合う環境があつてこそ、学びは翼を広げ、挑戦する勇気や優しい心が芽生えるのです。

そして、私たちの学びの場は、教室の中だけではありません。世界遺産をはじめとする悠久の歴史、息をのむほどに美しい海や豊かな山々。福津が誇るこの素晴らしい自然と風土は、私たちの五感を研ぎ澄まし、知的好奇心や郷土を愛する心を育む、かけがえのない教科書です。

この教育大綱をつくるにあたり、私は市民の皆様とのワークショップを通じた「対話」を何より大切にしてきました。特に中高生をはじめとする多くの市民の皆様から頂いた、未来への熱い思いや貴重なご意見に、心から感謝申し上げます。そこで交わされた対話は、この計画を支える大切な土台となりました。私たちが目指すのは、多様な人が手を取り合い、知恵を出し合って新しい価値を生み出していく「共創」の考え方です。

私たちが描く未来の教育は、単なる知識の習得ではありません。自分を愛し、隣人を尊び、この恵まれた環境の中で自ら考え動き出す力。さらには、自分自身の幸せだけでなく、「周りの人々の幸せ」も共に考え、行動できる未来の創り手を育むこと。失敗を恐れず、そこから学び、再び立ち上がるしなやかな強さを、地域全体で育んでいきたいと考えています。

「一人の子」を大切にするその先に、誰もが輝き、共に歩める福津の未来を、市民の皆様と共に創り上げていきましょう。

令和8年3月
福津市長 福井 崇郎

